

第52回全国知的障害福祉関係職員研究大会 青森大会開催要綱

1 大会趣旨

全国の知的障害福祉関係職員等が、一堂に会し当面の諸問題について研究討議し、これを実践として活かすことにより、知的障害者の福祉の向上に寄与することを目的とする。

2 大会テーマ

「磨こう現場力、活かそう支援力」

～青い森で考える、人の“絆”～

次々と変わりゆく制度の中、制度に翻弄されることなく支援者として利用者に向き合い、利用者に豊かな暮らしと質の高いサービスを提供していくために、支援者の支援力、そして専門的な知識を向上させ、現場に活かすことを目的に青森大会を開催いたします。

3 主催

公益財団法人 日本知的障害者福祉協会
東北地区知的障害者福祉協会
青森県知的障害者福祉協会

4 後援(予定)

厚生労働省、文部科学省、青森県、青森市、(一般社団) 全国肢体不自由児者父母の会連合会、障害のある人と援助者でつくる日本グループホーム学会、(社福) 全国社会福祉協議会、全国社会就労センター協議会、(社団) 全国脊髄損傷者連合会、(特非) 全国地域生活支援ネットワーク、(一般社団) 全国知的障害者施設家族会連合会、(一般社団) 全国児童発達支援協議会、(社福) 全国重症心身障害児(者)を守る会、(特非) 日本障害者協議会、(公益社団) 日本重症心身障害福祉協会、(公益社団) 日本精神科病院協会、(特非) 日本相談支援専門員協会、(公益社団) 日本発達障害連盟、(一般社団) 日本発達障害ネットワーク、(公益財団) 日本社会福祉弘済会、(社団) 日本自閉症協会、(社福) 青森県社会福祉協議会、(社福) 青森県共同募金会、(一般社団) 青森県手をつなぐ育成会、青森県自閉症協会、(社福) 青森市社会福祉協議会、(公益社団) 青森県社会福祉士会

5 会期

平成26年9月3日(水)・4日(木)・5日(金)

6 会場

<全体会・部会・分科会>

リンクステーションホール青森 青森県青森市堤町1丁目4番1号 Tel017-773-7300

<情報交換会・部会・分科会>

ホテル青森 青森県青森市堤町1丁目1-23 Tel017-775-4141

7 参加者

- (1) 知的障害者福祉関係職員及び教育関係者、関係行政職員等
- (2) 手をつなぐ育成会会員等

8 日 程

【9月3日(水) 第1日目】

- 11:30~12:20 受付
12:20~12:50 ウェルカムアトラクション「ピアノ演奏」障害者通所支援事業所
「夢香房すてっぷ」利用者
「郷土芸能」大東ヶ丘サントピアホーム
- 13:00~14:00 開会式・表彰式
14:00~15:00 行政説明(厚労省予定)
15:00~15:20 震災復興報告 報告者:岩手県知的障害者福祉協会 前会長 久保田 博 氏
15:20~15:40 休憩
15:40~17:10 基調講演「磨こう現場力、活かそう支援力」
講師:立教大学コミュニティ福祉学部福祉学科 教授 平野 方紹 氏
- 17:10~18:30 移動
18:30~20:30 情報交換会 ホテル青森

【9月4日(木) 第2日目】

- 9:00~9:30 受付
9:30~12:00 <部会>
①児童発達支援部会
②生産活動・就労支援部会
③日中活動支援部会
④障害者支援施設部会
⑤地域支援部会
⑥相談支援部会
- 12:00~13:30 昼食・移動
13:30~16:30 <分科会>
分科会1 自己表現は未来への創造
~一人ひとりが発光体~
分科会2 私のキャリアデザインを描く
~仕事は“豊かな人生を作っていくステージ”~
分科会3 異業種の視点から学ぶ
~地域を変えるソーシャルアクション~
分科会4 虐待防止への取り組み
~より安心して福祉サービスを利用するために~
分科会5 自分らしく老いるために
~高齢障がい者支援に求められるもの~
分科会6 その人に必要な“適切な支援”とは?
~強度行動障害・自閉症スペクトラム支援の在り方を考えよう~
分科会7 リスクマネジメントによる“しあわせ”サポート
~利用者・職員の“しあわせ”の土台となるリスク管理とは~

【9月5日(金) 第3日目】

- 9:00~9:30 受付
9:30~10:15 特別講演Ⅰ 青森大学経営学部准教授・新体操部部长 中田 吉光 氏
10:15~10:30 休憩・準備
10:30~11:50 特別講演Ⅱ 元力士/NHK大相撲解説者 舞の海 秀平 氏
11:50~12:15 閉会式

9 大会参加費

15,000円 (大会2日目の昼食代及びシャトルバス代込み)

10 情報交換会

1日目全体会終了後、大会参加者を対象に実施いたします。(先着700名様とさせていただきます)

参加費 6,000円

会場 ホテル青森

11 宿 泊

青森駅周辺及び青森市街地

12 問い合わせ

【大会に関するお問い合わせ】

全国知的障害福祉関係職員研究大会・青森大会事務局

担当：森・蒔田

〒031-0833 青森県八戸市大久保字大山22-10 (のぞみ園内)

TEL 0178-32-4198 FAX 0178-33-5843

E-mail: aigo.aomori@gmail.com

ホームページ http://www10.ocn.ne.jp/~nozomi/aigo_aomori/

【お申し込み・宿泊に関するお問い合わせ】

株式会社近畿日本ツーリスト東北 青森支店

担当：伊藤・藤田 (FAX又はメールでお願い致します)

〒030-0801 青森県青森市新町1-1-14 損保ジャパンビル3F

TEL 017-722-5500 FAX 017-773-5165

E-mail: aomori@or.knt-th.co.jp

ご挨拶

障害者基本法の改正、障害者虐待防止法、障害者総合支援法、障害者差別解消法の成立など障害福祉を取り巻く環境は次々と変化しております。

また、平成26年1月には我が国は障害者権利条約の締結国となり、障害のある人達の権利保障が政策として取り上げられてきています。この様な中、障害のある人達の権利擁護を担う我々施設職員、最も身近なところで障害のある方に接している施設職員の役割は重く、その任を果たすことが重要になってきます。

数年前、元宇宙飛行士の毛利衛さんの講演を聴く機会がありました。演題は「宇宙からの贈り物」、ハイビジョンを使ってのスペースシャトルからの映像(日本もくっきり見えていました)や、スペースシャトルでの様子など興味深い話がたくさんありました。その講演の中で、心に残る話がありました。「宇宙空間から、スペースシャトルから地球を見ると地球こそが生命が存在できる唯一の星ではないかと思う、まさに『地球はまほろばだ』『地球まほろば』」とっておられました。それだけ地球はきれいで美しいということだと思います。毛利さんが言うには「まほろば」とは「ほっとする場所」という意味だそうです。地球が人類にとって「ほっとする場所」、戦争もテロも環境破壊もないそんな地球であってほしいという願いがあったように思います。

我々、日々の暮らしを振り返ってみても、「ほっとする場所」というのは必要です。仕事が終わり自宅に帰ると「ほっと」する。人はどこかに「ほっとする場所」を求めるものです。同じように障害のある人にとってもこの安心・安全な「ほっとする場所」というものはなくてはならないものだと思います。我々の仕事というものはこの「ほっとする場所」をいかに作り上げ、提供していくかというところにあるように思います。

次々と変わりゆく障害福祉を取り巻く環境、そして制度の中、この変化に翻弄されることなく支援者として利用者に向き合い、利用者に豊かな暮らしと質の高いサービスを提供していく、「ほっとする場所」を提供していくために、支援者の支援力、そして専門的な知識を向上させ、現場に活かすことを目的に、青森大会を開催いたします。

大会実行委員長 小 畑 敦
(青森県知的障害者福祉協会会長)

第 1 日目 9月3日(水)

全体会

会場：リンクステーションホール青森

- 11：30～12：20 受付
- 12：20～12：50 ウェルカムアトラクション
- ・郷土芸能 「津軽平野～春夏秋冬～」
 - 障害者支援施設 大東が丘サントピアホーム
- ※「津軽平野～春夏秋冬～」は、私たちの『ふるさと』を想う気持ちを、地元
に古くから伝わる重要無形文化財（お山参詣・嘉瀬の奴踊り）などを通して
表現したものです。一人ひとりの力は小さくとも心をつなげて発表したい
と思います。
- ・ピアノ演奏 障害者通所支援事業所「夢香房すてっぷ」利用者
- ※「国際障害者ピアノフェスティバル」の青森大会を始め、全国大会（東京）、
アジア大会（大阪）、ウィーン大会に参加。
- 13：00～14：00 開会式・表彰式
- 14：00～15：00 行政説明 厚生労働省
- 15：00～15：20 震災復興報告
- 報告者：岩手県知的障害者福祉協会 前会長 久保田 博 氏
- 15：20～15：40 休憩
- 15：40～17：10 基調講演「磨こう現場力、活かそう支援力」
- 講師：立教大学 コミュニティ福祉学部福祉学科
教授 平野 方紹 氏
- ※主な経歴
- 昭和55年 埼玉県職員採用 埼玉県生活福祉部障害福祉センター準備室主事
 - 57年 埼玉県障害者リハビリテーションセンター指導部指導課主事
(重度身体障害者更生援護施設・視覚障害者更生施設 指導員)
 - 平成4年 埼玉県生活福祉部障害福祉課精神薄弱福祉係主任
 - 8年 埼玉県生活福祉部高齢者福祉課老人福祉施設係主任
 - 11年 厚生省出向 厚生省社会・援護局企画課社会福祉専門官
 - 16年 日本社会事業大学社会福祉学部福祉計画学科准教授
 - 24年 立教大学コミュニティ福祉学部福祉学科准教授
 - 25年 現職（現在に至る）
- ※社会的活動（主なもの）
- 埼玉県地域自立支援協議会会長、さいたま市障害者政策委員会委員長、さい
たま市地域密着型サービス運営委員会委員長、埼玉県運営適正化委員会委員
長、新座市障がい者施策委員会委員長 他
- ※最近の著作（主なもの）
- 『社会福祉政策研究の課題』（共著）『地域福祉計画の理論と実践』（共著）
 - 『障害者自立支援法と応益負担』（共著）『福祉事務所運営論』（共著）
 - 『障害者自立支援法ハンドブック』（監修）『福祉労働とキャリア形成』（共著）
 - 『障害者虐待－その理解と防止のために』（共著）『基礎から学ぶ社会保障』（共著）
- 18：30～20：30 情報交換会（会場：ホテル青森）

第 2 日 目 9月4日(木)

部 会 ・ 分 科 会

会場：リンクステーションホール青森・ホテル青森

部 会

午前 9：30～12：00

テーマ 各部会の方向性と全国の取り組み

9：00～9：30		受 付	
9：30 ～ 12：00	児童発達支援部会 ①	「今後の障害児支援のあり方」 ～現場職員として取り組むべき課題と成果～	米川 晃 部会長
	生産活動・ 就労支援部会 ②	「事業協同と福祉専門性」 ～工賃は“支援力”によって向上する～	榊原 典俊 部会長
	日中活動支援部会 ③	「一人ひとりの想いやニーズを尊重した日中活動支援の充実を目指して」 ～行動障害を伴う方や障害の重い方等への適切な支援とは…～	森下 浩明 副部会長
	障害者支援施設部会 ④	「地域資源の一つとしての入所施設のあり方を考える」 ～利用者の安心で豊かな生活を実現するために～	芦馬 謙二 部会長
	地域支援部会 ⑤	「地域で暮らし続けたいという思いに私たちはどのように関わり、応えていけばよいのか」	山崎 千恵美 部会長
	相談支援部会 ⑥	「これからの計画相談」 ～現在までの計画相談を検証し、平成27年度完全実施に向けて計画相談のあり方について考える～	小林 繁市 部会長
12：00～13：30		昼食・移動	

分科会

午前 13:30～16:30

テーマ 学びと実践

13:30 ～ 16:30	分科会1	自己表現は未来への創造 ～一人ひとりが発光体～
	分科会2	私のキャリアデザインを描く ～仕事は“豊かな人生を作っていくステージ”～
	分科会3	異業種の視点から学ぶ ～地域を変えるソーシャルアクション～
	分科会4	虐待防止への取り組み ～より安心して福祉サービスを利用するために～
	分科会5	自分らしく老いるために ～高齢障がい者支援に求められるもの～
	分科会6	その人に必要な“適切な支援”とは？ ～強度行動障害・自閉症スペクトラム支援の在り方を考えよう～
	分科会7	リスクマネジメントによる“しあわせ”サポート ～利用者・職員の“しあわせ”の土台となるリスク管理とは～

第 ② 日 目 9月4日(木)

午前の部 (部会)

会場：リンクステーションホール青森・ホテル青森

① 児童発達支援部会

■ 9:30～12:00

対 象：障害児入所支援 障害児通所支援

テーマ 「今後の障害児支援のあり方」

～現場職員として取り組むべき課題と成果～

メイン講師：米川 晃 部会長

司会進行：秋田県高清水園 熊谷 公彦 園長

実践発表

② 生産活動・就労支援部会

■ 9:30～12:00

対 象：就労移行 就労継続支援A型 就労継続支援B型

テーマ 「事業協同と福祉専門性」

～工賃は“支援力”によって向上する～

メイン講師：榊原 典俊 部会長

司会進行：ワークショップ大鱈 田中 大生 施設長

実践発表

③ 日中活動支援部会

■ 9:30～12:00

対 象：生活介護 療養介護 自立訓練 地域活動支援センター

テーマ 「一人ひとりの想いやニーズを尊重した日中活動支援の充実を目指して」

～行動障害を伴う方や障害の重い方等への適切な支援とは…～

メイン講師：森下 浩明 副部会長

司会進行：いわき光成園 古川 敬 法人事務局長

実践発表

④障害者支援施設部会

■ 9：30～12：00

対 象：障害者支援施設

テーマ 「地域資源の一つとしての入所施設のあり方を考える」
～利用者の安心で豊かな生活を実現するために～

メイン講師：芦馬 謙二 部会長

司会進行：あかまつ荘 渡部 良喜 施設長

実践発表

⑤地域支援部会

■ 9：30～12：00

対 象：共同生活援助 自立訓練（宿泊型）

福祉ホーム 居宅介護 重度訪問介護 行動援護 移動支援

テーマ 「地域で暮らし続けたいという思いに私たちは
どのように関わり、応えていけばよいのか」

メイン講師：山崎 千恵美 部会長

司会進行：黄金荘 得田 和明 施設長

実践発表

⑥相談支援部会

■ 9：30～12：00

対 象：相談支援事業 就業・生活支援センター 重度障害者包括支援

テーマ 「これからの計画相談」
～現在までの計画相談を検証し、
平成27年度完全実施に向けて
計画相談のあり方について考える～

メイン講師：小林 繁市 部会長

司会進行：向陽園 八柳 律子 広報企画部長

実践発表

分科会 1

■ 13:30~16:30

テーマ 自己表現は未来への創造 ～一人ひとりが発光体～

趣旨

アートやスポーツ等で自己表現することは、私たちが生きている歓喜であり希望である。私たちは光あふれる誕生の記憶を共有している。一人ひとりが発光体なのだ。あらゆる生命体はリンクしている。根源的な生命力から未来は創造される。世界は祈りに満ちている。可能性は無限に開かれている。ユニバーサルな社会の実現を目指し、実践を通してのグローバルなメッセージを届けたい。

■第1部 13:30~14:20

講演

テーマ 「お互いを理解し認め合う機会の創造」
は私達の大切なしごと
～私達の支援その先にあるものとは～

講師 社会福祉法人 安積愛育園
ディレクター 村上 実 氏

私達の日々行っている支援は、対象になる方々の真の幸せに結び付いているのだろうか。地域支援、地域移行、所得保障、権利擁護、質の高いコミュニケーション支援。これらは当然、私達が希求する喫緊の課題である。しかし、この課題を乗り越えた時、果たして実を結び花を咲かせる土壌が今の地域社会にあるのだろうか。私達はあまりにも目の前の準備された課題しか見えていないのではないだろうか。一人ひとりが生きがいや幸福感を味わうことのできる地域社会とは。そして私達にできることとは。<FUKUSHIMA>から発信する。

■第2部 14:30~16:30

シンポジウム

コーディネーター

社会福祉法人 のぞみ会
障がい者支援施設 のぞみ園
施設長 上條 勝芳 氏

シンポジスト

社会福祉法人 雪の聖母園
地域支援センター ライフネットゆうばり
センター長 中川 博之 氏

「北海道知的障がい者芸術祭みんなあーとについて」
今年で14回目を数える「北海道知的障がい者芸術祭みんなあーと」。展示部門では全道の施設・学校から毎年400点以上の絵画・書道・陶芸などの応募があり、ステージ部門では20組以上のチームがダンスや演劇などを披露している。

社会福祉法人 かりがね福祉会 風の工房
生活支援員 小山 達也 氏

「夢は等身大」

風の工房は、それぞれにとっての居場所であり、<しごと>や<やくわり>の場。そして<つくりて>たちの表現が大切にされる場所。一人ひとりが日々の生活や社会、そして夢を実現するための創作活動を行う。いきいきとした作品は、つくりてたちの身近な場から広がっていき、フランスや香港など海外の展覧会でも評価されている。

社会福祉法人 岩手更生会

障がい者支援施設 緑生園

業務課長補佐 玉山 恵里子 氏

「One for All All for One」

緑生園が訓練にラグビーを取り入れたのが昭和45年。なぜ障がいのある彼らにラグビーなのか。さらに7連覇を成し遂げた新日鐵釜石やその他数多くのチームとの交流、ニュージーランド遠征での勝利などを紹介する。

分科会 2

■ 13:30～16:30

テーマ 私のキャリアデザインを描く ～仕事は“豊かな人生を作っていくステージ”～

趣 旨

福祉サービスの需要が増加するとともにさらに上質なサービスが求められている今、一人ひとりの職員が高い倫理観や価値観、知識や技術を持つことが求められています。

また、支援現場でのチームワークの形成や自信を持って仕事ができる職員になるための指導・育成の充実がさらに高くなってきました。これからも、福祉職員がプロフェッショナルとして活躍し続けるためにはどのようなことが大切なのでしょうか。

これまでの自分自身の仕事（価値観、達成感）を振り返り、今後のキャリア（職業人生）を築いていく力を育むために、自己理解と目標設定の方法を考えてみましょう。

■ 13:30～16:30

- ◇テーマ 私のキャリアデザインを描く
～仕事は“豊かな人生を作っていくステージ”～
- －仕事は機能（専門性）と役割（組織性）で出来ている
 - －職場の中で“自分が”成長していく
 - －仕事を通して“自分を”成長させる
 - －“自分で”考え、判断し、行動できる自分を目指す

◇分科会の進め方

- ①ワーク・キャリア（職業人生）の重要性（基調講義）
- ②自分の職業人生曲線を書いてみる（個人ワークとペアワーク）
- ③職業人生は一人ひとり異なるもの（全体発表と講師コメント）
- ④新しい“モチベーション”の考え方（まとめ講義）
- ⑤苦しい時に“自分を持ちこたえさせる”言葉（最後に）

講師紹介



株式会社エイデル研究所 人材開発推進部長 丹羽 勝 氏

企業での経験は技術・製造・人事と多岐に亘り、日本の会社における組織風土の経験に加え、外資系企業で鍛えられた変化・革新の感覚は、介護・福祉の現場で今必要とされる働く仕組み作りの考え方に活かされている。海外勤務や宇宙飛行士受験など、経験・体験の中で得た喜びや数々の失敗に加え、数多く接している介護・福祉現場の現実を例に進める研修は、多くの受講者の共感を得ている。特に力を入れているテーマは「チームマネジメントの実践」「フィードバックの活用による部下育成」「ロジカルシンキングによる問題解決～問題発見力と解決力」「OJTと人材育成の仕組み作りと実践」等。またキャリア教育にも力を入れており、「職業人生におけるキャリアの形成」「キャリア・アンカーと仕事の喜び」をテーマに、豊かな職業人生に向けて自分自身がどのように働いていくのかを、実践経験の紹介と理論を織り交ぜながら研修を行っている。

産業・組織心理学会会員、全社協「福祉職員生涯研修課程」講師、県福祉研修センター運営委員会アドバイザー、県域人材育成委員会委員。福祉・介護人材マッチング支援事業アドバイザー、地域密着型小規模複数事業連携事業研修プランナー養成研修講師等を歴任。

分科会 3

■ 13:30~16:30

テーマ 異業種の視点から学ぶ ～地域を変えるソーシャルアクション～

趣 旨

福祉ではソーシャルアクションを間接援助技術の一つとして、当事者を取り巻く環境をより良くするためにその活動が行われてきましたが、近年は民間団体や地域住民、企業など、いろいろな組織が自分たちのコミュニティや地域をより良くしようとソーシャルアクションを実践しています。この分科会では福祉の枠組みを超えた、広義のソーシャルアクションによりイノベーションを実践している方々から効果的なアプローチを学び、障害のある当事者を取り巻く環境をより良くしていく為の活動のヒントを探ります。

■第1部 13:30~14:50

講演 I

講師 八戸せんべい汁研究所
事務局長 木村 聡 氏

<プロフィール>

1964年生まれ。青森県八戸市出身。東京農業大学卒。博物館学芸員の資格を有する。

2003年11月に「八戸せんべい汁研究所（汁研/じるけん）」を立ち上げ、地元以外では全く知られていなかった八戸せんべい汁を全国ブランドにして、街を元気にすることを目標に活動を続けている。

ご当地グルメソングの草分けとなった「好きだ Dear! 八戸せんべい汁」の企画の他、「B-1グランプリ」を発案して2006年に八戸市で第1回大会を開催した。B-1グランプリ主催団体「愛Bリーグ」の生みの親でもある。八戸せんべい汁研究所はB-1グランプリで2007年の第2回富士宮大会から2011年の第6回姫路大会まで5年連続で3位以内に入賞していたが、2012年の第7回北九州大会で悲願のゴールドグランプリ(全国第1位)を獲得した。

2008年度から八戸広域観光推進協議会の観光コーディネーターとして、2013年度からは八戸観光コンベンション協会の観光コーディネーターも兼務して、地域ならではの体験型等の観光資源を整備して売り込みながら、街なかの賑わいの取り戻しも含めた地域全体の活性化に向けて取り組んでいる。

■第2部 15:10~16:30

講演 II

講師 株式会社Kaizen
代表取締役 鈴木 慶太 氏

<プロフィール>

2000年、東京大学経済学部卒。NHKアナウンサーとして報道・制作を担当。'07年からKellogg（ノースウェスタン大学ケロッグ経営大学院）留学。MBA。渡米中、長男の診断を機に発達障害の能力を活かしたビジネスモデルを研究。帰国後Kaizenを創業。

分科会 4

■ 13:30～16:30

テーマ 虐待防止への取り組み ～より安心して福祉サービスを利用するために～

趣 旨

どんな職場でも虐待リスクは存在します。職場全体の虐待リスクが高まってしまう可能性もあります。福祉現場で虐待リスクを低めるためには、直接支援する職員が行動障害や逸脱行動をする障害者の特性を理解し対処するスキルを身につけるとともに、管理者が虐待を生む構造を熟知し虐待には至らせない人材育成・研修や職員配置などのガバナンスが必要です。

本分科会では、虐待リスクを低下させるためのさまざまな局面での取り組み、虐待に深く関わり研究された方々からの具体的な話を聞き、障害者の人権を守る立場として虐待予防や再発防止を考える場としたいと思います。

■第1部 13:30～14:45

講 演

講 師 毎日新聞社
毎日新聞論説委員 野沢 和弘 氏

◆略歴

1959年 静岡県熱海市に生まれる
1983年 早稲田大学法学部卒業
1983年 毎日新聞社入社、厚生省担当、薬害エイズ取材班、児童虐待取材班キャップ等。社会部副部長、夕刊編集部長を経て、2009年4月から現職（毎日新聞論説委員）、2010年10月からやじうまテレビ（テレビ朝日の朝の情報番組）コメンテーターとして出演、元千葉県障害者差別をなくす研究会座長、また現在植草学園大学客員教授、社会保障審議会障害部会委員、内閣府障害者政策委員会委員としても活躍されています。

《著書》

『条例のある街』（ぶどう社）
『わかりやすさの本質』（生活人新書）
『なぜ人は虐待するのか』（Sプランニング）
『あの夜、君が泣いたわけ』（中央法規）

■第2部 15:00～16:30

コーディネーター

毎日新聞論説委員 野沢 和弘 氏

シンポジスト

沼田法律事務所
弁護士 沼田 徹 氏

日本知的障害者福祉協会

分科会 5

■ 13:30～16:30

テーマ 自分らしく老いるために ～高齢障がい者支援に求められるもの～

趣 旨

障害者サービス事業所における利用者の高齢化が顕著になってきており、健康面及び日中活動など、生活全般に影響が出てきている。在宅においても、本人のみならず家族（介護者）の高齢化が進むなど、多くの課題を抱えている現状がある。

介護保険制度への移行が難しい状況の中、身体的、精神的変化や環境の変化をどう捉え、これからのライフステージにどのような視点で、日中活動（仕事）や余暇を位置づけていけばよいのか、また、医療との連携のあり方について等々、目指すべき高齢障がい者支援について考える。

■第1部 13:30～14:45

講 演

「高齢知的障害者支援に求められるもの」
～侑愛荘の実践から～

講 師 社会福祉法人 侑愛会
障害者支援施設 侑愛荘
施設長 祐川 暢生 氏

講師プロフィール

平成7年 社会福祉法人函館カリタスの園 勤務

平成18年 社会福祉法人 侑愛会 知的障害者
入所更生施設 侑愛荘 副施設長

平成21年 社会福祉法人 侑愛会 障害者支援
施設 侑愛荘 施設長

平成24年 北斗市生きがい活動支援通所事業所
生き生きゆうあい 所長（兼任）

平成25年 社会福祉法人 侑愛会 総合施設次長

主な役職

- ・北海道知的障がい福祉協会 理事
- ・北海道知的障がい福祉協会運営委員会
委員長

■第2部 15:00～16:30

シンポジウム

コーディネーター

社会福祉法人 虹の会
障害者支援施設 虹のいえ
園長 桜田 星宏 氏
社会福祉法人 秋田虹の会 常務理事
秋田県知的障害者福祉協会会長

スーパーバイザー

社会福祉法人 侑愛会
障害者支援施設 侑愛荘
施設長 祐川 暢生 氏

シンポジスト

・青森県
社会福祉法人 七峰会
障害者支援施設 拓光園
主任生活支援員 齋藤 憲樹 氏

・福島県
社会福祉法人育成会
ライフサポートセンター「ゆう・ゆう」
ヘルパーステーション風雅
管理者 松崎 亨 氏

・青森県
特定非営利活動法人
青森市手をつなぐ育成会
会員 藤谷 和子 氏

「高齢知的障害者が増加している中で、知的障害者福祉に携わる多くの支援者が悩みながら支援を続けています。これまで利用者のよりよい生を支えるために努力を傾けてきた支援者に、いま、よりよい老年期、人生の終末をどう支えるかが問われています。高齢化が問題となっている意味、高齢期支援のポイントを一緒に考えることができれば幸いです。」

分科会 6

■ 13:30～16:30

テーマ その人に必要な“適切な支援”とは？ ～強度行動障害・自閉症スペクトラム支援の在り方を考えよう～

趣 旨

強度行動障害を有する方の中には、対応する人に危険（怪我をするリスク）を伴う方もいる。実は“適切な支援”によって危険を伴う行動を減少させることもできるが、“適切な支援”ができない・わからないことで危険を伴う行動を増加させてしまい、結果として“不適切な支援（虐待と疑われるような関わり）”につながるケースもある。また、このような状況を恐れ、利用者の受け入れを断る事業所も出てきている。

その土地で生まれて、その土地で育って……。その土地に“適切な支援”がないことを理由に、利用者はその土地から締め出されてしまう。こんなことで、真のノーマライゼーションは実現できるのか。その土地（地域）は暮らす人にとって豊かな土地なのか……。

今大会のテーマに沿って、今、現場職員ができる支援とは何か。本分科会では、対応が難しいと思われるがちな、強度行動障害者・自閉症スペクトラム支援についてスポットを当て、“適切な支援”について考える。

■第1部 13:30～14:45

講 演

テーマ その人に必要な“適切な支援”とは？
～強度行動障害・自閉症スペクトラム
支援の在り方を考えよう～

講 師 独立行政法人
国立重度知的障害者総合施設のぞみの園
事業企画局研究部長 志賀 利一 氏

プロフィール

神奈川県において、発達障害児を専門とした診療所で心理職、障害者の一般就労を目指す事業に特化した社会福祉法人で働き、現在は、知的障害・発達障害のある人の生活上の課題と支援のあり方に全般の調査・研究を行っている。

■第2部 15:00～16:30

実践報告会

講師兼コーディネーター
独立行政法人
国立重度知的障害者総合施設のぞみの園
事業企画局研究部長 志賀 利一 氏

実践報告①

テーマ 「アセスメントから始める
“適切な支援”
～人は変わる～
社会福祉法人 豊寿会
障害者支援施設 妙光園
ディレクター 分枝 篤史 氏

実践報告②

テーマ 「成人期の自閉症Aさんへのこれまで行ってきた支援と今後の課題について」
社会福祉法人 フレンドシップいわて
障害者支援施設 虹の家
海沼 美希 氏

分科会7

■ 13:30～16:30

テーマ リスクマネジメントによる“しあわせ”サポート ～利用者・職員の“しあわせ”の土台となるリスク管理とは～

趣 旨

障害福祉における事業形態が多様化した昨今、施設・職員・利用者の周りに潜むリスクも多岐にわたっています。事故や怪我等による施設・職員への損害賠償事例、利用者ご本人も怪我などによりQOLを低下された事例、それに伴って保護者も身体的・精神的・経済的負担が増加した事例、天災等により将来に不安を感じた事例など、リスクは誰にとっても“しあわせ”を阻害する要因と言えます。

本分科会では、リスクを早期発見・早期解消また予防するためのポイントを整理しながら、実際にリスクマネジメントに取り組まれている方々にお話していただきます。“しあわせ”の土台となるリスクマネジメントについて学ぶ機会とし、より良い“しあわせ”サポート（支援）を実践できるものになりたいと思います。

■第1部 13:30～14:45

講 演

テーマ 「リスクマネジメントとは」

講 師

インターリスク総研

事業リスクマネジメント部

事業継続マネジメント(BCM)グループ

上席コンサルタント 松岡 伸輔 氏

■第2部 15:00～16:30

鼎 談

テーマ 「リスクマネジメントへの取り組み
～施設内外での事故防止活動と事故
対応事例～

鼎談者 社会福祉法人 常磐会

理事長 久木元 司 氏
(危機管理委員会委員長)

岡山大学大学院法務研究科

教授 西田 和弘 氏
(危機管理委員会専門委員)

新潟県中央福祉相談センター企画指導課

課長代理 今井 洋 氏
(前歴 被災地障害者相談支援コーディネーター)

第 3 日 目 9月5日(金)

全 体 会

会場：リンクステーションホール青森

9：00～9：30 受付

9：30～10：15 特別講演Ⅰ：「青森から世界へ」

～男子新体操の普及と文化の構築～

講 師：中田 吉光 氏 青森大学経営学部准教授・新体操部部长

1986(昭和61)年・1987(昭和62)年、全日本新体操選手権大会連続優勝する。
1987(昭和62)年デンマークで行われたジムナストラダ世界体操祭(通称メダルのないオリンピック：27か国40チーム参加)で優秀チームに選出された。

1988(昭和63)年より指導者としてスタートし、全国高校総体、全国高校選抜、国体等の全国大会で優勝5回、準優勝10回を数える。

2002年より青森大学の監督に就任、全日本学生新体操選手権大会前人未到の12連覇中、全日本新体操選手権大会で9度の優勝に導く。

競技の他にも舞台「BLUE」の開催やデザイナー三宅一生氏と行った公演、またそのプロセスを映画化した「FLYING BODIES」が上映されるなど、男子新体操を広めるべく活動をしている。

卒業生には教員や社会体育指導員を始め、世界的パフォーマンス集団「Cirque du Soleil」のパフォーマーや男子新体操界初のダンスユニット「BLUE TOKYO」を結成し、国内外で活躍している者など優れた人材を幅広く輩出している。

また、2011年より(公財)日本体操協会 男子新体操委員会委員長に抜擢され、名実ともに男子新体操界のリーダーとして牽引している。

10：15～10：30 休憩

10：30～11：50 特別講演Ⅱ：「あきらめない夢」

講 師：舞の海 秀平 氏

元力士／NHK大相撲解説者

日大相撲部で活躍。山形県の高校教師の内定が決まっていたにもかかわらず、周囲の反対を押し切って夢であった大相撲入りを決意。新弟子検査基準(当時の身長に足りなかったため頭にシリコンを入れて新弟子検査に合格。

1990年5月、大相撲出羽海部屋入門。同月、初土俵(幕下付出し)。1991年3月、十両(四股名：舞の海)に昇進し、同年9月幕内入りを果たす。角界最小の身体ながら、「猫だまし」、「八艘飛び」などファンを驚かせる数々の技をくりだし、「技のデパート」の異名をとる。1999年11月の引退までに、技能賞を5回受賞。

2011年度近畿大学経営学部客員教授を勤める。NHK大相撲解説者として幅広く活躍中。

◎最高位：小結 ◎三 賞：技能賞5回受賞 ◎生涯通算成績：385勝418敗27休 ◎幕内通算成績：241勝287敗12休 ◎得意技：左四つ・下手投げ